令和4年9月吉日

会員各位

泉区学術委員会

泉区歯科医師会会長　橋本　和喜

学術理事　毛呂　文紀

**泉区特別学術講演会のご案内**

拝啓

初秋の候、会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。元泉区歯科医師会会長の渡瀬孝彦先生が本年4月に現役を引退されました。渡瀬先生は、その歯科医師人生において「総義歯」を大きなテーマとして研究され常日頃の臨床においても多くの症例を通じて患者様のQOLに大きく寄与して参りました。すでに渡瀬先生は引退されましたが、これまでの多くの総義歯治療に関するエッセンスを特別に我々泉区歯科医師会員のために講義して下さることになりました。

下記の要領で泉区特別学術講演会をWEB形式(Zoom)で開催いたします。今回の講演会は戸塚区歯科医師会、栄区歯科医師会の会員の皆様も視聴可能となっております。御多用の折ではございますが、万障お繰り合わせの上御参集いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、本研修会は日歯生涯研修に登録できますので、各自添付のQRコードを読み込んでいただき登録をお願い致します。QRコードの読み込みが出来ない方は当日自分の日歯登録番号をチャットにお名前とともにご記入ください。（日歯登録番号は紫の会員証に記載されている６桁の番号です）。

敬具

記

日時：令和４年9月17日（土）　19時から約90分

講師：渡瀬孝彦　先生

演題：装着後すぐに安定してよく咬める総義歯の臨床

〜石膏による無圧印象法とアクアライザーを活用した咬合採得の術式〜

安定のよい総義歯を作るキーポイントは、印象採得、咬合採得、人工歯配列にあります。印象採得は、義歯の維持に必要な接着と吸着を得るために、無圧印象が望ましいと考えています。

私は下顎無歯顎印象に、最も無圧に近い石膏印象を行っています。石膏印象用個人トレーを用いることで、従来の石膏印象の欠点をカバーすることができます。石膏印象の利点は、筋形成の必要がなく、開口時の筋や粘膜の形態を無圧に近い状態で再現できます。これにより、開口時に浮き上がらない安定した総義歯を作ることができます。

また、咬合採得には、一般的にワックス咬合床やゴシックアーチ描記法が使われていますが、安定した下顎位を求めるために、顎関節症治療用スプリント・アクアライザーを応用しています。これにより顎関節と筋の均衡を得た下顎位を決定し、咬合床の力が左右の顎堤に均等に加わった状態の顎位を採得できます。

ワックス咬合床で起こりやすい、ワックス軟化状態の違いによる、床の偏位が起こりにくく、咬合時に安定したよく咬める総義歯を製作することができます。

総義歯治療は、経験や技術によるところが大きいと思われがちですが、総義歯が咀嚼時に安定する基本的な考え方を理解した上で製作すれば、決して難しくないと思います。この考え方に基づいて、現在私が行っている手法について、臨床例を中心に解説します。

泉区歯科医師会学術特別講演会

時間: 2022年9月17日 07:00 PM 大阪、札幌、東京

Zoomミーティング

<https://us02web.zoom.us/j/81560119088?pwd=aUdaRm5RbXBpZG5sOXNZN2s3RmxvUT09>

ミーティングID: 815 6011 9088

パスコード: 819507

日歯生涯研修登録QRコード



聴講についてのお願い：患者の写真なども含まれますので、録画等の記録はお控えください。ご理解のほどよろしくお願いいたします。